



Zero Carbon Park , NORIKURA KOGEN

— 乗鞍高原におけるサステナブルな地域づくりの取り組み —



※令和4年3月23日時点

1. 中部山岳国立公園と乗鞍高原

- ・北アルプス一帯を占める日本を代表する山岳の国立公園。乗鞍高原は、公園南部に位置する標高3,026mの乗鞍岳の東麓（標高1,200～1,800m）に広がる高原地帯。
- ・令和3年3月22日、地域関係者協働により地域づくりビジョンである「のりくら高原ミライズ」*を策定。ゼロカーボンの推進を重要取組事項として定め、その将来性などが認められたことから、令和3年3月23日に日本初のゼロカーボンパークに登録された。

*併せてのりくら高原ミライズ構想協議会を設置し、取組事項について進捗管理



2. 地域の脱炭素化に向けた議論

- ・令和3年6月及び11月に地域関係者一同が集い、学識者等も招いて「のりくら高原ゼロカーボンフォーラム」を開催し、ゼロカーボンのあり方などについて議論。地域内でのサステナブルに関する知見を深めるべく、今後も継続して実施予定。
- ・脱炭素・脱プラ実現チーム*が主体となり、電力等のエネルギー消費量や再エネ需要を把握するためのアンケート調査を実施。令和4年度は信州大学と連携して、さらなる詳細調査を実施予定。

*のりくら高原ミライズ構想協議会地域づくり分科会内に設置したチーム



2.地域の脱炭素化に向けた議論

- 乗鞍高原ゼロカーボンフォーラム及びアンケート調査結果をもとに、松本市が申請主体となり、大野川区及び信州大学とともに「[脱炭素先行地域](#)」に応募。ゼロカーボンを具現化すべく地域エネルギーの地産地消を目指し、地域関係者一体となって議論を継続していく。

3.サステナブルツーリズムの試行的取組

- 令和3年7月に[脱炭素・脱プラ要素をツアーコンテンツに盛り込んだサステナブルキャンプ](#)を実施。旅行者とともにサステナブルのあり方について議論。
- 令和3年10月に学生を対象として、持続可能なライチョウ観察など[サステナブルの仕組みを学ぶサステナブルツアー](#)を実施。



4.乗鞍高原をもっと味わうための取組

- ゼロカーボンパーク登録後1周年を迎えることから、令和4年3月に[ゼロカーボンパーク体験イベント](#)を開催。中部山岳国立公園パートナー企業とともにサステナブルの実現を目指す。
- 乗鞍高原におけるサステナブルな取り組みをわかりやすく情報発信するための[ランディングサイト及びサステナブルマップ「お山の恵みMAP」](#)を製作。
- ノイズレスな環境で仕事に集中し、地産地消の食事や温泉、美しい自然環境で気分をリセットできる「[リトリートワーケーション](#)」を推進。地域資源をじっくり堪能してもらうことで長期滞在化を図り、滞在中のCO2排出量の削減にも寄与。



5. 保護と利用の好循環の実現

- 乗鞍高原の美しい自然の中をハイキングやMTB等で体験するモデルルートを設定し、「[NORIKURA KOGEN TRAILS](#)」という新たなブランドを立ち上げ、トレイル協力金の仕組みも導入。
トレイル協力金を活用して保護と利用の好循環を目指すとともに、E-bikeのレンタルサービスを拡充させるなどして、乗鞍高原内のカーフリー化を推進する。



6. 脱炭素の取組の実践

- 乗鞍高原本来の景観再生を目指し修景伐採を行っている一の瀬において、伐採木を利用したベンチづくりや新たなクラフト商品の企画検討を実施。中部山岳国立公園パートナーと連携して、新たな観光コンテンツに地域材の活用を組み込み、CO2固定化を推進する。
- 信州大学が開発した給水スポット「[swee](#)」を観光センターに設置。また、中部山岳国立公園パートナー企業である(株)コロンビアスポーツウェアジャパンとコラボしたマイボトルも販売。旅行者にも地域の脱プラを体験してもらうきっかけを創出。
- 乗鞍観光センター・乗鞍自然保護センターなど鈴蘭地区周辺を乗鞍ゼロカーボンパーク拠点施設として上質化整備を実施予定。その他、拠点施設やペンション等の宿泊施設のZEB・ZEH化を目指す。

